

# ふるさと Something NEWS

## 第45回

# 「宇宙」は「ふるさと」にはならない

## ——ふるさと観&ふるさと感

一般社団法人 光楓座  
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事 佐藤建吉

▼宇宙は自力

そして、もう一

▲浴室の癒し(軽井沢、筆者撮影)



つ、宇宙で暮らすには、自分自身のチカラでは生きられず、必ずや誰かの支援が必要となるだろう。それは、科学技術が前提としたものである。したがって、宇宙での暮らしは、よく言えば、そうした支援への「感謝」の醸成にはなる。

な局面である。サウナでは味わえない日本人の幸福感ではないかと思う。ふるさととは、お風呂の例のように、自分を委ねる環境ともいえる。

▼ふるさと＝生活圏環境

その前提になるのは、通俗的ではあるが、衣・食・住の保全である。それ観「であり」ふるさとには、環境である。その感「ではないだろうか。保全には、もちろんエネルギーが必要であり、家族や地域社会(コミュニティ)も要件となる。日進月歩の科学技術、多様化する国際社会、激変する地球環境は、私たちの生活圏を広い視野で護らなければならぬ。その原点が「ふるさと」であり「ふるさと感」ではないだろうか。

▼ふるさと＝郷愁

この連載「コラム」も45回目を迎えた。ふるさとをテーマに、私論を書いてきた。年内の48回で終わりにする予定であり、そろそろまとめの回になってきた。

あり、海や川のある自然との暮らしを求めて、現在の千葉県岬町に引っ越した。その名から想像されたとおり、灯台のある町である。こぼれ、第一の故郷である。

「ふるさと」とは直接呼ばないが、新規都市づくりで筆者も承知しているのは、オーストラリアのキャンベラやブラジルのブラジリアなどの新首都建設である。またイギリスにあるミルトン・キーンズは、新構想でつくられた都市である。オーブンユニバーシティの本部がそこにあり、クルマで訪ねたことがある。イギリスで普通のラウンドアバウトがその街への入り口であった。市街図をみても新構想が感じられ、今では人口25万人の町になり、歴史の古いイギリスにあつては、新しい街であり、新規事業も生まれている。

そうした取り組みは、地域づくりであり、地域創生という言葉がふさわしい。この言葉は、地域再生などの意味でも用いられる。筆者は、「地域づくり」という言葉は、当該の「地域」に対しては、実に失礼な言葉であると思っている。なぜなら、その対象とする「地域」は、現にそこであり、人も住み暮らしが営われている。それを否定して、新たに何かをつくるというからである。

地域活性学会という地域再生を進める団体の活動があった。その学会で、私が提案したのは、「地域re(リ)づくり」であった。もう一度つくる、あるいは再生という意味を込めて「re」を挿入した。この呼び方は、学会の校閲は通らなかつたが、今でも筆者の取り組みの基幹となっている。スクラップ&ビルトであれば仕方ないが、ソフトな地再生は地域reづくりと呼びたい。

▼宇宙はふるさと

話題を変えよう。「ふるさと」には、郷愁としての感覚を否定できない。さて将来、私たちは宇宙にも旅行し、あるい

地球に居る感じることが出来る自然の変化、例えば開花や落葉、その前提となる気温変化、そして晴雨の天気変化はないだろう。そうすると、一年の滞在は、一日と同じであり、退屈で無味のようにも思われる。

▼安堵感＝お風呂

ふるさとを考えると、その満足させる擬態的な例は、「お風呂」かなと考える。42度C前後の適温のお湯に、裸で入浴する安心感と、全身に行き渡る水圧は、浴場や浴室、その景観など、安堵感を引き起こす。癒しであり健康の促進にもなる。それは、短い時間ではあるが、一番の象徴的

ふるさととは、故郷、古里などとも呼ばれる。地域や場所と関わりが強い。故郷は、郷愁という言葉が相応しい。それは時間の経過とも関わりがある。時間は、未来からやってきて「いま」があるとの見方と、「いま」が次々と通り過ぎてゆくという過去への流れとしてとらえる見方もある。郷愁は、後者である。したがって、ふるさは、過去と強く結びつく。

過去が悲惨であったという思いからは「ふるさと観」は生まれない。それでも、時間が経ち、辛かった思い出も懐かしく思えば、郷愁となり、「ふるさと感」を味わえる。これに対して、不動産開発や街づくりでは、「ふるさと」を作ろうとする取り組みでもある。前述した「ハイマート」は、まさに故郷の住まいを提供しようという事業や開発であった。

▼ふるさと＝書く

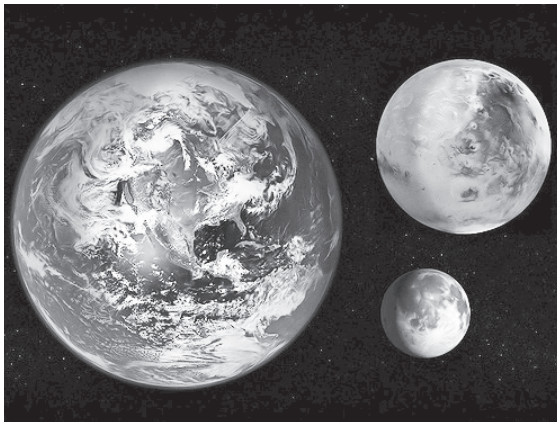
筆者が初めて購入したマンションは、ハイマートと書いて、これもドイツ語が語源で「ふるさと」であった。彼岸の時期には、線香の趣のする落ち着いたところだった。そこを賃貸に回し妻の実家の空家に住んだ。それは千葉の街中であり、駅から30秒、勤務先まで5分の至便なところであったが、面隣が居酒屋で

▼地域re(リ)づくり

地球に居る感じることが出来る自然の変化、例えば開花や落葉、その前提となる気温変化、そして晴雨の天気変化はないだろう。そうすると、一年の滞在は、一日と同じであり、退屈で無味のようにも思われる。

ふるさとを考えると、その満足させる擬態的な例は、「お風呂」かなと考える。42度C前後の適温のお湯に、裸で入浴する安心感と、全身に行き渡る水圧は、浴場や浴室、その景観など、安堵感を引き起こす。癒しであり健康の促進にもなる。それは、短い時間ではあるが、一番の象徴的

地球・火星・月の宇宙  
<http://free-photo.net/serach/entry.php?id=338&search=%E5%AE%87%E5%AE%99>から引用



連載・バイオマス